やましろ 普及センターだより

2012年10月
第14号

特集 GAP

GAP（ギャップ）があなたの経営・産地を支えます！

ＧＡＰは、消費者から信頼され、安定的に農業経営を続けていくために必要な「安全な農産物生産」、「環境の保全」、「農作業事故の防止」、「経営改善」に大変有効な手法です。

自らの経営・産地を守るため、ＧＡＰに取り組みましょう。

普及センターでは、これまで茶生産者に向けて研修会を重点的に行ってきましたが、今後は野菜・果樹生産者へと取組を広げ、ＧＡＰの正しい理解とＧＡＰ手法の導入を支援していきます。

GAPとは、生産者自らが農業生産工程の全体を見通し、食品安全、環境保全などの観点から、自分の農業が『より良い農業』となるよう**作業手順やルールを考えて実践する**取組です。

※ **Good**（良い） **Agricultural**（農業生産の） **Practice**（実践）

京都府山城北農業改良普及センター
〒610-0331 京田辺市田辺明田1 TEL.0774-62-8686

京都府山城南農業改良普及センター
〒619-0214 木津川市木津上戸18 TEL.0774-72-0237
ホームページ http//www.pref.kyoto.jp/fukyu/からどうぞ

茶のGAPの取組紹介

～今までの活動と今後の導入の動きについて一問一答でまとめてみました～

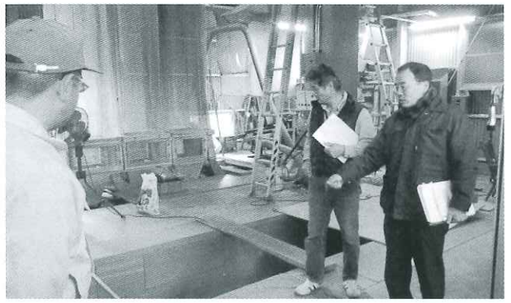
□普及センターがGAPを推進し始めたのはいつ頃からですか？

平成２０年からです。管内のてん茶工場で二足制の導入や帽子の着用、定期的な清掃等を通じて、作業の見直しを啓発したのが始まりです。

□研修会はどのように行ったのですか？

地域ごとに、茶の生産組織の総会や研修会で実施してきました。２２年からは、視点をまとめた「ＧＡＰ取組の手引き」を活用して具体的な内容の研修を行い、これまでに延べ約700名ぐらいの生産者の方に話を聞いていただいています。

各地域でＧＡＰの研修



製茶工場での研修　みんなで安全対策を検討

□研修会での生産者の声は？

最初は難しいものというイメージを持たれている方が多かったのですが、研修後は、我が家のルール作成など、出来るところから始めてみようという方がほとんどでした。

□今後は？

ＧＡＰは産地全体で取り組むことが重要なので、今後も生産者の皆さんの活動を支援していく予定です。宇治茶ブランドの土台として、より多くの皆さんの実践が期待されます。

茶品評会 審査結果

入賞された皆様　おめでとうございます

第65回関西茶品評会が三重県で、第66回全国茶品評会が静岡県で開催されました。

山城地域から出品された茶が、農林水産大臣賞・産地賞を受賞し、高品質な宇治茶産地であることをあらためてアピールしました。

☆関西茶品評会成績

農林水産大臣賞

玉露	京田辺市茶業部会 出島　宏 氏（京田辺市）
てん茶	辻　喜代治 氏（宇治市）

産地賞

玉露	京田辺市
てん茶	宇治市

☆全国茶品評会成績

農林水産大臣賞

てん茶	古川嘉嗣 氏（宇治市）

産地賞

てん茶	宇治市

京都の茶ここにあり

みんなの力で勝ち取ろう！　平成25年度全国茶品評会は京都開催です。

みなさんが主役の品評会です！　多くの賞を獲得して次世代に誇れるお茶づくり！

～農薬を安全に正しく使いましょう～

GAPで安心安全な野菜生産を！

収穫・調製・出荷の作業は、野菜の生産工程の中でも消費者に渡る直前の作業であり、食品としての十分な衛生管理が必要です。各作業や施設に安心安全を脅かすリスク（危険）要因がないかを点検し、我が家の安心安全対策としてルール化しましょう。

整理・整頓された農作業小屋
※１ページ絵と比べてみましょう

こんな農作業小屋見かけませんか？
（1ページ絵参照）
× 調製作業に不要な物が雑多に置いてある
× 小動物や害虫が簡単に侵入できる

↓

考えられるリスク
異物混入、病原菌の付着、農薬・肥料・油等の付着

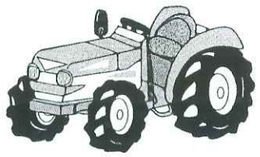
↓

考えられる安心安全対策（ルール）例
□農作業小屋の管理責任者を選定する
□小屋は常に清掃し、整理・整頓する
□収穫コンテナ、ハサミ等は定期的に洗浄する
□小動物や害虫の侵入防止対策をとる
□農薬は別の所で鍵のかかる農薬保管庫に保管する

GAP推進で農作業安全

農作業事故を起こさないように危険な作業をあらかじめ知り、日頃の点検・確認により、安全を確保することもＧＡＰの取組です。

農業機械を安全に使うために、どんな機械でも取扱説明書で確認の上、作業前後の整備・点検・清掃を実施しましょう。



考えられる安全対策例
□コンバインのワラ詰まりは、必ずエンジンを停止して、除去する
□トラクターではシートベルトをしてバランスウェイトを装着し、公道走行時は左右ブレーキを連結する
□製茶機械の点検・修理・清掃は、主電源を完全に切ってから行う

「京やましろ新鮮野菜」の認証制度が始まります

２３年４月に生産農家、ＪＡ京都やましろ、卸売市場、山城広域振興局が連携して「やましろ新鮮野菜応援プロジェクト」を発足させ、山城産野菜の商品力と知名度を上げる取組を進めています。

現在、「京やましろ新鮮野菜産地銘柄認証制度」の25年7月スタートをめざして、チラシやポスターを配布し、ロゴマークの公募を行っています。

今後はＪＡ京都やましろを通じて、生産者の登録と販売協力店の登録を行い、ロゴマークを添付した「京やましろ新鮮野菜」の販売促進を行っていきます。

～余裕のある作業で、事故を防ぎましょう～

各地で「やましろ野菜産地担い手養成塾」を開講中

山城特産野菜の新しい担い手を育成するため、普及センターと関係機関が連携して、講義とほ場実習を中心に塾を開講し、新規栽培者がスムーズに栽培開始できるよう支援しています。

２４年度は、すでに効果を上げている京田辺市のナス、木津川市のナス、宇治田原町のキュウリに加えて、京田辺市のエビイモ、管内全域の万願寺トウガラシの養成塾を開講しています。

万願寺トウガラシの箱詰方法の実習

○えびいも農家養成塾

ＪＡ京都やましろ京田辺市えびいも部会が主体となって、京都府農山漁村伝承技能登録者を講師として開講しています。新規栽培者７名とＮＰＯ法人１団体が、芽だし作業から定植、土寄せ、施肥、摘葉、病害虫防除等、栽培に必要な技術と知識を学んでいます。同時に塾生は各自のほ場で栽培に挑戦しており、産地の拡大につながっています。

エビイモの機械による土寄せ作業の講習

○万願寺とうがらし農家養成塾

万願寺トウガラシは、精華町や木津川市山城町を中心に栽培されてきましたが、２３年度からＪＡ京都やましろ万願寺とうがらし部会として１本化されました。

そこで、管内全域の新規栽培者と予定者２６名を対象に、副部会長を講師に塾を開講しています。講師の丁寧な指導の下、摘心・誘引・収穫作業、病害虫診断・防除、出荷・箱詰等の実習を行いました。冬期からは、土づくり、栽培準備等の研修を行う予定です。

直売所紹介

花野果市（はなやかいち）10周年を迎え、さらに盛況

花野果市は木津川市木津のＪＡ木津支店内にあり、13年度にオープンした直売所です。

わずか６７㎡の施設ですが、１６年度に売上が１億円を突破しました。現在は約150名の生産者で運営されています。

直売所の重要な行事は、各地域の運営委員により十分検討され、スイカ、ポテト、ダイコンの「旬の地域特産物フェア」や、お盆、彼岸のフェアを実施しています。

また、お客様に、より良いものを届けるため、先進地調査や農薬安全使用等の研修会を毎年、全員参加で行い、生産者自ら販売当番として活躍しています。

なお、１日４回販売情報が全会員の携帯電話に配信され、タイムリーに売れ行き状況を把握することで、毎日の販売、作付に役立てています。

～築いていこう　男女共同参画社会～